

○ 各科目の目標及び内容構成はどのように改善されているか。

1 各科目の目標

教科の目標を全面的に受けるのは、共通必履修科目の「国語総合」である。一方、「国語表現」、「現代文A」、「現代文B」、「古典A」及び「古典B」は、教科の目標のそれぞれの部分を重点的に扱う科目であり、各科目の性格に応じて目標が示されている。

「国語表現」には想像力を伸ばすこと、「国語表現」、「現代文A」、「現代文B」には、国語の向上を図る態度を育てることが、「国語総合」と同様に明示されている。

(1) 国語総合

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

(2) 国語表現

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

(3) 現代文A

近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

(4) 現代文B

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

(5) 古典A

古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

(6) 古典B

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

各科目の内容は、科目の目標を確実に豊かに実現できるようにしている。「国語総合」の内容については、これまで「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び「言語事項」で構成していたのを、3領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に改められている。また、各科目及び各領域とも内容の(2)に言語活動が例示されている。

